

令和6年度「地域と学校の連携・協働体制構築事業」実績報告

●R6年度に本事業で重点的に取り組む課題に応じた目標等の設定様式

実施自治体名	課題の類型1	課題の類型2	背景・現状・課題の詳細	これまでの取組状況	左記課題の解決のために令和6年度に実施する具体的な取組	本事業で達成する目標(アウトカム)	目標の達成度を測る指標	本年度の目標値	本年度の実績値	アウトカムの達成度に関する評価・分析(事業における成果、課題、改善点等)	
172065_加賀市	②学校と地域の課題	学校支援ボランティアの確保・育成	本市では、学校と地域の連携・協働が十分に図られているとは言えず、学校が様々な活動を抱え込んでいる実態が見られる。また、市内の教員の約65%が月45時間以上の時間外勤務を行っており(R5.4月調査)、教員の業務負担軽減による時間外勤務の縮減が課題となっている。	<p>昨年度、市内の全小中学校に学校運営協議会を設置することができた。学校運営協議会の中では、各学校が育てたい児童生徒像やそのために創造すべき教育課程について、熟議することができた。そして、子どもたちの育成のために、地域との連携・協働が進み、学校支援ボランティアによるサポート体制の構築が進んだ。</p> <p>しかし、学校によって、教職員のCSIに対する理解度、学校運営協議会の活性化には差があり、地域との連携・協働があまり進んでいない学校もある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会委員や地域学校協働活動推進員は、学校と地域をつなぎ、学校が抱える様々な活動をサポートする学校支援ボランティアの確保・育成に取り組む。 ・前年度、学校支援ボランティアの活動が積極的に展開された学校の事例を紹介したり、先進地域のCSの活動例を学ぶ研修を実施したりする。 ・学校支援ボランティアのサポート活動を活性化させることにより、教員の業務負担の軽減を図る。 	<p>社会に開かれた教育課程の創造や学校・家庭・地域の役割分担の明確化により、地域との連携・協働が進み、教員の業務負担が軽減する。</p>	<p>学校支援ボランティアのサポートにより、業務負担が軽減されたと実感する教員の割合(市内全教職員へのアンケート調査実施)</p>	60	61	3	<p>市内の全小中学校に学校運営協議会を設置し2年目を迎えた。学校運営協議会の中では、各学校が育てたい児童生徒像やそのために創造すべき教育課程について、熟議することができ、子どもたちの育成のために、地域との連携・協働が進み、学校支援ボランティアによるサポート体制の構築が進んだ。</p> <p>一方、学校によって、教職員のコミュニティ・スクールに対する理解度、学校運営協議会の活性化には差があり、地域との連携・協働があまり進んでいない学校も依然として存在する。次年度は、CSコーディネーター研修等を通じて、好事例を紹介しながら、地域による学校支援を活性化させ、教員の負担軽減をさらに進めたい。</p>